

浜松学芸高等学校 社会科学部地域調査班

高校生発! 広告代理店

取組概要

●若者が市外に流出し、地域経済が停滞してしまうことが課題だと考えています。そのため、地域の観光資源や産業文化に焦点をあてたPR動画やポスターを高校生の目線で制作することで、若者をはじめとした様々な方に地域の魅力を伝える広告代理店として取り組んでいます。

●「いつか戻ってきたいと思える街として魅力を発信する」ことを目的とし、地域や企業に潜む魅力にスポットライトをあてることで、浜松の魅力を次の世代に受け継いでいます。



はじめたきっかけ

社会科学部地域調査班は2017年に学内で探究活動が開始したことに伴い発足し、当初は天竜浜名湖鉄道のポスター制作を行いました。その活動が評価され、その他の企業や団体からもポスター制作を依頼されるなど、活動の幅が広がりました。様々な依頼に対応するため、ポスター制作だけでなく、活動の拡大に合わせて「イベント」や「アパレル」など多くの部門に分かれて活動しています。

ポイント

高校生ならではの目線を通じて、次世代に「いつか戻ってきたいと思える街」として地域・地場産業の魅力を発信しています。校内の取組で終わるのではなく、地域外の高校にもノウハウを共有することで、活動の輪が広がっており、各地で若い世代が地域課題を考えることを後押ししています。

地域課題と取組成果

これまでに20を超える企業のCM動画やポスターを制作しました。地域に住む高校生が地域の企業や団体を応援する活動が、だんだんと地域に認知されているのを感じています。市外の企業や高校からの問い合わせも増え、実際に青森県、三重県、岐阜県、愛知県の高中生や自治体と協働して、取組について制作ノウハウを共有しています。

地域の高中生が地元企業などと協働して地域の魅力を発信する取り組みが認知されてきています。静岡県立森林公園ではCM制作の効果も加わり利用者が20%増加するなど、魅力の発信に貢献していると実感しています。さらに、浜松市の魅力を発信する取組を通じて、自分達自身も浜松市の魅力に気づくことができました。

●取組形態 探究活動・部活動

●設立年 2016年

●構成員数 36名

●HP URL <https://www.gakugei.ed.jp/>

● 広告代理店とのことですが、どのような体制で活動しているのでしょうか？

設立は2016年で、地域の魅力を「衣食住」の観点から発信し続けてきました。例えば、「衣」の分野では、浜松注染めめを使ったシャツの市販化を目指したり、浜松注染めめの浴衣を着てダンスパフォーマンスをしたりしています。「食」では、摘果みかんなどを使ったおにぎりの販売、「住」では、観光という側面から地元企業や自治体のポスターなどを制作しています。

依頼が増えたことをきっかけに、広告代理店を立ち上げ、「食品」「広告」「イベント」「アパレル」「観光」の5つの部門に分かれて活動しています。観光部門と広告部門が連携して企業ポスターやプロモーション動画を作成したり、アパレル部門とイベント部門がチームになって、浜松注染めめの浴衣をPRするアイドルグループを結成し、活動したりしています。



● 実際に、どのような活動をされているのですか？

活動は多岐にわたりますが、イチオシは、浴衣アイドル「Tint²（ティントティント）」です。浜松注染めめ浴衣の魅力を発信することを目的に、地域イベントでダンスパフォーマンスを行い、振り付けをはじめ、三ヶ日みかんや浜名湖の夕日、遠州灘などをイメージした浴衣の配色も自分たちで決めました。私たちの卒業後も活動が継続できるよう、浴衣の色で応援してもらえるシステムにしています。

浜松注染の浴衣を着てパフォーマンスを披露することで、小さな子どもたちに夢を与え、次世代の浜松注染の浴衣ファンを増やしていきたいと考えています。これまでに、市内のイベントをはじめ青森、京都など、県外からも招かれて公演し、たくさんの方々に応援いただいています。

● 活動をするうえで大切にしていることはありますか？

2016年の地域調査班設立当初から大切にしている4つの活動ポリシーがあります。「①知っている場所から行ってみたいくなる場所への変化を促す」「②いつか戻ってきたいと思える街の魅力を発信する」「③中高生には共感を、大人には懐かしさを感じる青春を演出」「④地元の企業や団体と協働する」です。これらの活動ポリシーは、代々受け継がれていて、お話いただいた依頼については、このポリシーに当てはまるかどうか判断しています。



● SDGsへの取り組みについて教えてください。

SDGsには17のゴールがありますが、私たちは特定のゴールのための活動をしているわけではありません。私たちの活動を通じて、自然とそれぞれのゴールに貢献できるのではないかと考えています。SDGsの前文には、「誰一人取り残さない」という社会を目指すとあります。17のゴールや169のターゲットだけを見ると、自分とは関係ない課題に見えたり、難しそうと感じたりするかもしれませんが、「誰一人取り残さない」という視点で見ると、いろいろなアクションをイメージしやすいと思うし、関わりやすくなるのではないかと思います。SDGsという言葉は知っていても、授業で習うだけだと、ちょっと遠い存在に感じてしまう人も多いと思います。でも、実際に地域で活動することで、SDGsに親しみを感じるようになれるし、地域の魅力や課題にも目を向けられるようになると思います。

